

三井物産、メキシコの電力インフラを支えて

三井物産株式会社 プロジェクト本部
インフラ事業アセットマネジメント部 第二営業室長
協田 善匡



メキシコと聞いて、読者は何をイメージされるだろうか。「タコス、テキーラ、サボテン、ピラミッド」は言わずと知れているも、メキシコは今や中南米でブラジルに次ぐ経済規模を誇り、人口も1億2000万人を超え、グローバルな大手自動車メーカーが相次いで進出。ペニャ・ニエト大統領が推し進める経済改革および石油、ガス、電力分野のエネルギー改革によるビジネス機会の高まりが注目を集めている。リーマンショック後においても、隣国である米国の経済回復の恩恵も享受しながら経済成長率は着実に回復しており、格付会社ムーディーズ・インベスターズ・サービスは2014年にメキシコのソブリン格付けを「Baa 1」から「A 3」に引き上げた。

メキシコでの電力ビジネスモデル変遷

——当社のメキシコIPP (Independent Power Producer、独立発電事業者) 事業参画の原点——

当社のメキシコにおける電力案件への取り組みは、古くは1950年代の水力発電所向け発電機器納入にさかのぼり、以後メキシコ電力庁 (CFE) や民間向けのEPC (Engineering, Procurement and Construction) 案件を手がけてきた。2000年代に入ると、メキシコは

好調な経済成長に伴う高い電力需要の伸びを背景とした新規発電所の建設が相次ぎ、かつ、多くのIPP案件が成立する有望市場へと発展してきている。当社は、同国の有望性に着目し、2003年にCFEが招聘したバジャドリドガス火力発電事業 (発電容量525MW) の事業権入札に米Calpine社と共同で応札した結果、当社グループが落札、中部電力も事業参画のうえで、CFEと25年間にわたるPPA (Power Purchase Agreement、長期売電契約) を締結。2006年の商業運転開始前の05年末には、共同出資パートナーであったCalpine社がChapter 11を申請するという困難に直面するも、当社は中部電力と共同でCalpine社持ち分を取得し、無事発電所を完工させ、06年6月に商業運転を開始。現在に至るまで発電所は安定操業を続け、メキシコ・ユカタン半島における電力の安定供給に寄与している。

——オペレーターシップモデルへの挑戦——

世界的な人口増加、経済発展により世界のエネルギー消費量は過去30年で約2倍に増加し、今後30年間で世界経済は約2.3倍に拡大、エネルギー消費量も省エネルギー技術の発展を考慮しても1.4倍に達すると予測されている。

このような成長領域をとらえ、当社は、過去より培っ

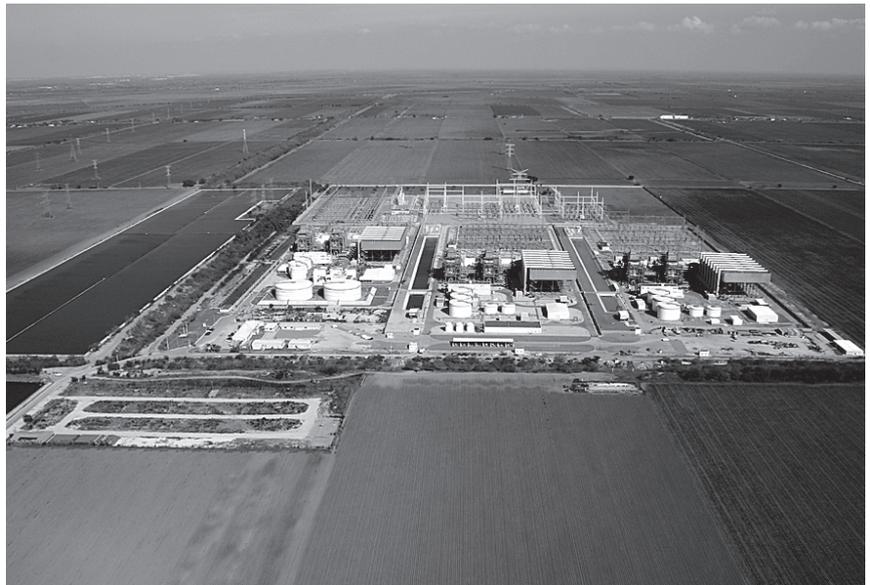


Rio Bravo発電所コントロールルームにて



Rio Bravo発電所にて

てきたEPC主契約者としての実績・知見と地場およびグローバルに張り巡らされたネットワーク活用による地域展開力を結集し発電事業への参入にも挑戦。1997年パキスタン／ハブ・リバー火力発電所、99年インドネシア／パイトン火力発電所の完工・操業、04年米Edison Mission Energy社のもつ海外IPP資産の大型買収、08年カナダ／オンタリオ州ガス火力発電事業の完工・操業など、幾多のIPP事業への参入を通じて電力事業ノウハウと知見を蓄積してきた。



Rio Bravo天然ガス焼き複合火力発電所

こうした変遷を踏まえ、当社は2008年になると主体的に事業を開発し運営する『オペレーターシップモデル』に挑戦する方針を掲げ、電力事業開発および電力事業経営を推進するプラットフォームを獲得し、かつ、同一地域で複数の電力資産を保有することによる保守・運営・燃料調達などのシナジー効果発揮の好機として、09年メキシコでのガス火力発電所5カ所（Rio Bravo-II, III, IV, Altamira-II, Saltillo: 合計発電容量2233MW）をまとめて買収することを決定した。本件は総額1100億円を超える大型買収で、国際協力銀行（JBIC）をはじめとする銀行団からの融資供与および東京ガス（30%）、中部電力（20%）、東北電力（10%）からの共同出資による事業スキームを構築。上述バジャドリド発電事業と併せメキシコ第2位のIPPとして電力を安定供給し、同国の経済発展の一翼を担っている。

——再生可能エネルギーへの参入——

当社は電力事業ポートフォリオ戦略の一環として再生可能エネルギー発電資産を一定量保有すべく、海外優良パートナーとの規模感のあるポートフォリオ構築を目指している。

メキシコでは、2004年以降、フランス国営電力公社（EDF）の再生可能エネルギー専門子会社であるEDF Energies Nouvelles社（EDFEN）と、新規風力発電案件の共同開発に取り組み、当社参画実現には至らなかったが良好な関係を構築しており、12年にEDFENが保有資産のリサイクルを促進することを決めると、長きにわたる当社との関係、経緯を尊重し、世界有数の好風況地域である同国オアハカ州にある2つの風力

事業への出資参画につき当社に打診をしてきた。

当社は、前述の再生可能エネルギー発電資産取り組み基本方針にも合致することから、EDFENから両事業の50%持ち分を2013年に相次いで取得、合計発電容量324MWを保有し、メキシコでの再生可能エネルギーへの取り組みにも着手した。

また、メキシコでは電力分野にとどまらず、ガス分野（LNGターミナル・ガスパイプライン・ガス配給事業）や水分野でのビジネスも展開しており、多面的にインフラ事業を推進している。

将来に向けて

当社の全世界持ち分発電容量（ネット）9.8GWの3分の1を占める米州域内において、とりわけメキシコは当社持ち分発電容量（ネット）が1.3GWに達する重要市場である。当社は長年にわたり築き上げたCFEとの好関係、過去より蓄積した知見やプレゼンス、当社グループ内の豊富な人的リソースを活かし、さまざまな電力事業に挑戦するに適した市場であると考えており、エネルギー改革の一環として創設される電力卸市場（Wholesale Electricity Market）にも注視している。当プロジェクト本部では、「No limits, no boundaries.」のスローガンのもと、ペニャ・ニエト大統領が推し進めるエネルギー改革の流れを機敏に捕捉し、CFEならびにメキシコ国営石油会社（PEMEX）ほかとの協業など、重層的かつ多岐にわたってメキシコでのさまざまなインフラ事業開拓および拡大に挑戦し、同国の発展に寄与して行きたい。